

あなたのスキルは社会に役立つ

2011年3月11日の東日本大震災発生直後に発足したHack For Japanと「市民が主体となって自分たちの街の課題を技術で解決するコミュニティ作り支援」を掲げるCode for Japanのメンバーから、防災や減災、地域の活性化や課題解決、そして人材育成など、「エンジニアができる社会貢献」をテーマにした記事をお届けします。

第109回

参加者数4,000人超! Code for Japan Summit 2020

● Code for Japan 理事

小泉 勝志郎(こいずみ かつしろう) [Twitter koi_zoom1](https://twitter.com/koi_zoom1)

Code for Japanは年に一度、大きなお祭りを行っています。それが「Code for Japan Summit」です。本連載でもほぼ毎年レポートしていますが、今年は開催のしかたが大きく変化しました。今回はその点も交えてレポートします。

イベントの再設計

10月17、18日の2日間、Code for Aichiを幹事団体としてCode for Japan Summit 2020^{※1}を開催しました。今年のテーマは、再設計を意味する「Re:DESIGN」です。2020年は新型コロナウイルスによって社会のあり方が大きく変わってきていますが、実はこのテーマは新型コロナウイルスが猛威を振るう前に決められたもののなのです。イベントの企画当初はオフラインイベントとして進んでいましたが、状況の変化により、Code for Japan Summit自体も大きく再設計をすることになりました。

新型コロナウイルスの感染拡大以降、単発イベントのオンライン化はずっと行ってきましたが、今回は初の複数トラックが同時進行するオンラインイベントとなりました。本節では、オンライン化のために行ったさまざまな工夫を紹介します。

▶ 複数トラックでオンライン配信を行うためのさまざまな工夫

まず基本となるオンライン配信の構成はZoom + YouTube Liveです。登壇者は複数の場合があるの

で、まずはZoomに集合し、講演をリアルタイムでYouTube Liveに流すというのが基本形式です。

Code for Japan Summitは、毎回登壇者が異なりセッションも数十あるイベントですが、今回はトラック0～6の、計7本のトラックを同時進行させました。セッションごとにYouTube LiveのURLを分ける形式も検討されましたが、視聴者側からすると毎回URLが変わると移動が大変です。移動が面倒だと、そのまま離脱されてしまう可能性もあります。そこで、セッションをカテゴリ別に分け、トラック単位でのURLとしました。

また、トラック0は特殊なトラックとして運用しました。オープニング、クロージング、基調講演などのイベント全体に関わる内容を配信するのがおもな用途ですが、それだけじゃないんです! 複数トラックに分かれてのイベント開催だと、「次はどのセッションを見ようかな?」とセッションの情報が知りたいことがあるかと思います。そのため、トラック0ではオープニングや基調講演の時間以外は、イベント全体の司会でもある太田垣恭子さんにより各トラックの紹介セッションが配信されていました。

また、オンラインイベントに配信トラブルはつきもの。各トラックがトラブルで配信できなくなったときなどの空き時間はトラック0に自動で切り替わるようになっていました。このため、ただ配信が止まるわけではなく、アナウンスも可能な形となります。実際、2日目にあるトラックが配信できなくなるトラブルがありましたが、このしくみのおかげもあって大事に至らなかったのです。

注1 <https://summit2020.code4japan.org>

そんな大活躍のトラック0は運用の特殊性もあり、ZoomではなくStreamYard^{注2}を用いています。これらの運営のしくみをまとめたのが図1です。

これだけのオンラインイベントを回すのですから、スタッフ数も膨大です。力を貸してくれた合計77名ものスタッフのみなさん、ありがとうございました。



スタッフに配信の裏側を インタビューしてみました

今回の配信のしくみを考えた酒井一樹さん、太田垣恭子さんにメールでインタビューしました。お二人はCode for Japan Summit 2020が開催される2週間前から「Cテレ2355」という、どことなく公共放送の番組感漂うライブ配信で各セッションの見どころを紹介してくださり、八面六臂の大活躍でした。

——CfJ Summitで大活躍でしたが、担当箇所をご紹介します。

太田垣さんと2人でナビゲーターということになっていましたが、僕はその中でも技術的な支援を担当しました。あと、アイデアについてもかなり出したと思います。

——ここは工夫したという箇所は？

当日限りというものにしなかったことで、2週間前からライブ配信による紹介番組で盛り上げていく手法をとりました。

——ここは自慢したいという箇所は？

2週間のライブ配信をやり切ったことで、さまざまなトラブル対応など、当日にぶっ通しでトラック0を運営するための経験が一通り得られたことです。すべてのセッションの概要が頭に入っていたことなどは、後付けではあり、企画時からわかっていたことではありませんでしたが、自慢できる手法だったと思います。

——ネスト懇親会(後述)はやってみてどうでした？

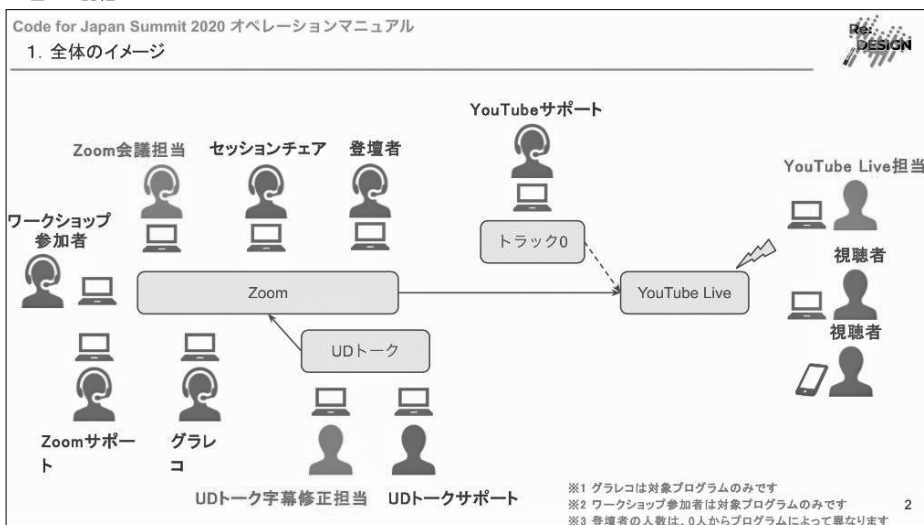
全国の盛り上がりが見えたので、可視化という点では一定の役割を果たせたかと思います。しかしながら、各拠点の横のつながりという点までは、正直微妙だったかなと思います。もっと掘り下げて、バージョンアップした企画を考えると楽しいかもしれませんね。

——今回苦労した点について、もし改善するとしたらどうしますか？

やはり直前にならないと火がつかないので、そこを改善したいです。公式のプレイベントを何回かやるとか、そういった改善ができると良いかもしれません。

注2 <https://streamyard.com/>

▼ 図1 配信のしくみ



——最後に何か一言あれば。

来年に向けて敷居を上げたかもしれませんが、オンラインイベントじゃないとできないこと、そういう突き抜けた感覚がいくつかあったと思っていて、そこを大事にしつつ、もっともっと来年は突き抜けてほしいです。

字幕&グラフィックレコーディング

グラフィックレコーディングは、もはやCode for Japan Summit名物ですね(図2)。字幕は今回も全セッションに付いています(ツールはお馴染みとなったUDトークです)。また、全セッションに編集スタッフが付いています。

今回はスタッフの数の問題もあり、グラフィックレコーディングの対象は限られたセッションだけでしたが、セッションの内容がよく理解できる、質の高いグラフィックレコーディングになっています(図2)。

各セッションについて

本節では、各セッションの模様をレポートします。

▼図2 基調講演のグラフィックレコーディング



▼図3 オードリー・タン氏の基調講演



基調講演

基調講演は今メディアでも多く取り上げられている台湾のデジタル担当大臣であるオードリー・タン氏(図3)が登場。今回はCOVID-19下での台湾でのシビックテックについて講演しました。「パンデミックは過去、人と人との距離を広げてきたが今はデジタルの力がある。市民を信頼しよう」とのメッセージを述べられていました。

シビックパワーバトル

Code for Japan Summitと並列する形で「シビックパワーバトル」も開催されました。シビックパワーバトルとは、おもにオープンデータを活用して、今まで埋もれていた、または知らなかった地域の魅力を発掘・発信することを目的としたイベントです。全国から複数の自治体に参加し、シビックプライド(まちを愛する気持ち)を動画^{注3}で表現していました。今回、グランプリに輝いたのは神奈川県川崎市の「川崎シビックプライド」。川崎市の特徴をなんとミュージックビデオ形式に！ 川崎市のオープンデータも随所に差し込まれた力作です(図4)。

シニア2.0！ シニアがプログラミングをすれば未来が変わる

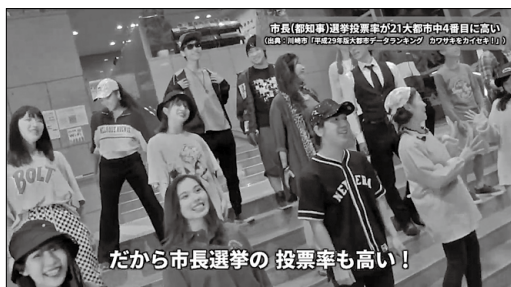
こちらは筆者が担当したセッションです(図5)。プログラミングで稼ぐシニアがさらにバージョンアップされたという内容です^{注4}。

今やデジタル改革関連法案ワーキンググループにまで名前を連ねるようになった若宮正子さん。若宮

注3 https://youtu.be/ygp_a6HFgsc

注4 <https://youtu.be/rB3Z71D0Wbk>

▼図4 グランプリに輝いた「川崎シビックプライド」



参加者数4,000人超! Code for Japan Summit 2020

▼図5 シニア2.0



さんにプログラミングを教えたことをきっかけとして生まれたシニアプログラミングネットワークですが、現在はプログラミングで「稼ぐ」シニアも少しずつ現れています。

この連載でも何度か取り上げた鈴木富司さんは、85歳にして新アプリを開発しています。新型コロナウイルスの状況下で外出をしなくなり、運動不足を解消するために片足立ち健康法を開始した鈴木さんですが、その時間を計測するためのアプリ^{注5}です。鈴木さんは参加者全員80歳以上のご兄弟でZoom会議も毎週やっていると。まさにバージョンアップし続けるシニアですね。

▶ バッドオープンデータ供養寺

オープンデータには、そのままではプログラムには読み込めないものもあります。たとえば、日付が入るところに「月末」と書いてあるなどです。そういったデータを利用しやすいように処理する「データクレンジング」についてのセッションです(図6)。今回も「埼玉の『玉』の字が実は2種類あった」など、

注5 <https://apps.apple.com/jp/app/watch-with-voice-for-keep-fit/id1535293155>

▼図6 バッドオープンデータ供養寺。ネタが1つ終わるたびに合掌するなどの演出が盛り上がり毎年大人気のプログラムです



呪われたデータが成仏していくさまを楽しめました。

▶ ネスト懇親会

先述のメールインタビューでも触れましたが、1日目終了後の懇親会は各地の会場をZoomでネストするという新方式でした。人数が多過ぎると話せない人が出てしまうけれど、複数に分割すると全国でイベントをしている雰囲気が出せない、そんな課題を解消する方式です(図7)。



まとめに、Code for Japan代表の関治之さんの言葉を引用します。

「今年は完全オンラインで実施したサミットですが、結果的に4,000名を超えるユニークユーザーが参加し、たいへん盛り上がりました。従来だと会場まで来ることができないような人々も気軽に参加できたのが良かったと思います。来年はいよいよ筆者のシビックテック活動の原点でもある東北での開催です。オンラインとオフラインのハイブリッドでの企画になると思いますので、今から楽しみです」

そう、2021年は東北開催なんです。そして、その実行委員長はなんと筆者が担当します。2021年は東日本大震災から10年となる節目の年。ある意味東日本大震災から日本のシビックテックが始まったとも言えます。次回に向けてまずは毎月ゆるく集まることから始めて行きます^{注6}。みなさんにもぜひ参加いただいて、来年のCode for Japan Summitをとものに考え、ともにつくっていきましょう！SD

注6 <https://peatix.com/group/8681124>

▼図7 ネスト懇親会。全国のZoomミーティングをさらに1つのZoomにまとめるというものです。1つのミーティングに数百の顔が表示されるようにしようという試みでした

